

活動報告「第6回 武蔵野三十三観音霊場（札所）巡礼」

記 小川 雅愛

活動日 令和7年(2025)6月5日

参加者 17名

行程 所沢駅9:06発→狭山市駅→16番慈眼寺⇒(八幡神社)⇒17番徳林寺(含む福德院)
⇒18番蓮花院(黒須観音)→(旧石川組迎賓館)→入間市駅解散12:40

梅雨入り前の快晴、気温は高めで熱中症警戒の報道もあるものの比較的湿度も低く歩きやすい日和に恵まれ、武蔵野三十三札所めぐりもちょうど中間の16～18番寺です。狭山の曹洞宗2、入間の真言宗智山派1、3寺院の札所めぐりを行いました。この地域は所沢から続く台地西北辺縁の高台から、入間川の河岸段丘面の低地・河畔へと続く起伏に富んだ地形をしており、特に鎌倉から室町時代は数々の戦いの要衝の地としてそれにまつわる伝承が多いように思われます。下見調査段階では距離優先で全行程歩きの巡礼を試みましたが、本日は上り坂歩行を極力避け、途中はバス移動などをもとり入れて身体に過重負担のないよう実施しました

『妙智山 慈眼寺』曹洞宗 本尊 聖観音

狭山市駅から高台にある寺には6,7分で着きます。入間川河畔に室町時代の正長元年(1428)、阿弥陀堂としての建立が当寺の始まり、幕末の慶応元年火災で焼失、時は明治維新の混乱期で再建は14年後の由、昭和2年(1927)入間川氾濫の水害をさけ現在地に移築されました。仁王像と龍の彫り物に特徴的な山門前で疲れる前に記念の集合写真を取り、境内に。開放的な寺院の文言どおり、本堂内まで入れていただきました。見事な伽藍に収まる聖観音像に拝礼、左右の説法印、来迎印2体の阿弥陀如来像があり、狭山市の指定文化財で快慶作との伝えの古い来迎印阿弥陀如来像を間近で拝観することができました。

「八幡神社へ」祭神 応神天皇

慈眼寺と同じ高台にある神社には4,5分で着きました。元弘2年(1332)新田義貞戦勝祈願奉納の伝承があります。その際の駒繫の松が有名。本殿は細部まで精巧な彫刻で縁取られ、見事です。入間川の風物詩七夕祭りが舞台の津村節子さんの小説の一節を刻んだ石碑もあります。

『福聚山 徳林寺』曹洞宗 本尊 釈迦三尊 札所本尊 聖観音

神社からは坂を降って、徳林寺境内東南の高台に先に巡拝しました。平成19年落慶の真新しい朱色の観音堂と霊場の象徴としてその背後の基壇を含め高さ12mで青空にそびえる純白の大観音石仏が迎えてくれます。観音堂内の美しい聖観世音菩薩座像とその周囲一面の小さな千体仏はあいにく閉鎖中、格子状から覗くしかできずに残念でした。福德院不動尊は豪商で「西の鴻池、東の綿貫」と称される綿貫家二代目当主の中興開基が始まりです。以後徳林寺には綿貫家ゆ

かりの奉納の伽藍・天井画、絵画軸物などがあります。

<綿貫家について>

慶長から明治まで 15 代続いた綿貫家一門の墓所がこの高台にあります。綿貫家は上州綿貫村から当入間川に移住したのが始まりですが当寺の逸品や墓所の墓誌、江戸後期の出納帳等のほか記録となる資料が少なく実態は不確かですが名主以上の存在で、当地に本店、江戸に数か所の支店を設け、江戸で米穀商(札差に近い)や代貸など金融業のほか、入間川では酒・味噌・醤油などの醸造業、水車を使った精米(江戸へ移出)など幅広い事業の豪農・豪商ぶりだったようです。そのため江戸中後期の伝馬騒動、武州一揆などの際は打ちこわし被害などを被っています。

<徳林寺 本堂へ>

綿貫墓所脇の階段を降り、広い墓地のなかほど通路には近年造られたとおぼしき台座には釈迦の生誕から涅槃までの物語が描かれた巨大な釈迦涅槃石仏像があります。ここで数分間参拝する間に焼香の方が入れ替わりでふたり、地元の人に敬愛されているお寺だと感じます。

広い境内に降りるが、バス移動の時間が迫ってきました。ここでぜひ拝観したいのが江戸中期の仏画で狭山市指定文化財の「釈迦涅槃図」と「釈迦八相図」でした。お願いしたところレプリカですがということで本堂内に入れていただき、レプリカとは思えない極彩色の見事な仏画 2 点を見ることができて大満足でした。なお、当寺は鎌倉街道沿いの地にあり、足利基氏の入間川御所の推定地と考えられています。11:01 社会福祉会館前バス停から黒須団地下車 蓮花院へ。

『世音山 蓮花院 妙智寺』(正式名称) 真言宗智山派

寺に着くとあらかじめお願いした栗野ご住職様に快く迎えていただきました。まず本堂で「蓮花院について」と題する案内文を配布、丁寧な解説をうけました。

<本堂内で>

栗野亮淳住職は当寺の 20 世にあたるとのこと。真言宗自体は 50 宗派があり、高野山派、智山派、豊山派がとりわけ多い。智山派は著名な成田山・川崎大師・高尾山始め、末寺が3千カ寺に及ぶという。本堂は明治期に焼失したことがあり、3 年前に改修しており伽藍内は真新しくすべてが美しい。開山・中興・ご本尊の説明をうけた後、一人ずつ順番に不動明王像にお祈りをしてから次の観音堂に移動し案内いただきました。

<観音堂内で>

仏師長慶作の木造千手観音菩薩像は入間市指定文化財で札所本尊、年一回の観音例大祭日のみ御開帳とのこと。秘仏周囲は美しい観音像絵などで飾られており、さらに天井すべてが花鳥図 165 枚で装飾され、美しい堂内となっていました。天井絵は屋根から染み出す水分等で風化が避けられないとの苦勞を話されていました。本物とほぼ同じサイズで造られた千手観音像立像があり、参拝して終了しました。寺からは 13, 4 分で入間市駅へ到着し予定時間内終了しました。

◇本日の担当 A グループ 黛、 谷、 大館、 小川

◇参考資料: 「武蔵野三十三所観音巡礼」朱鷺書房、「徳林寺札所資料」、「蓮花院資料」

「狭山市史通史編1」「入間川町史」「狭山市歴史年表」



慈眼寺山門





写真： 大館徹 小川雅愛